

## 2020 年度競技規則修改のポイント

## 1. 世界陸連関連

	ポイント	関連条文
1	組織名称変更 (2019/11～) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ IAAF → WA (World Athletics)</li> <li>➢ 国際陸連 → 世界陸連</li> </ul>	
2	規程類番号体系変更 (2019/11～) <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 競技規則に限らず、全規程類体系変更</li> <li>➢ Competition Rules → 【Competition Rules】【Technical Rules】</li> <li>➢ 旧体系と新体系の番号対比表あり</li> </ul>	2020 年度 日本陸連競技規則 は従前の体系にて 記載

## 2. 競技規則

1	審判長の任務【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 混成競技において、スタート審判長が任命されている場合の混成競技審判長との所管任務の明確化</li> <li>➢ 審判長による警告、除外は「リレー・チーム」も対象</li> </ul>	§125-3  §125-5
2	スターターの役割【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全ての競技者にとって公平で公正なスタートを保証することに責任を持つ</li> </ul>	§129-2
3	計測員（科学）の任務（動作）【変更】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 計測装置の動作確認タイミング (従前) 競技開始前と終了後 → (変更) 競技開始前のみ</li> <li>➢ 競技中の動作異常に備え、鋼鉄製巻尺は競技場所に常に用意しておく</li> </ul>	§135
4	性別の定義【明確化】	§141-4、5
5	〔国際〕服装（上着）の色【削除】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 「前後同色が望ましい」削除</li> </ul>	§143-1 (国内非適用)
6	競技用靴の規制【追加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 靴底厚さ規制（スパイクなし：40mm、スパイクあり：30mm）  <ul style="list-style-type: none"> <li>← 走高跳・走幅跳の靴底の厚み（13mm）</li> <li>走高跳の踵底の厚み（19mm）</li> </ul> </li> <li>➢ 市販（4 か月前から誰でもオープンな市場で容易に購入できる）</li> <li>➢ 競技中、審判長が疑義を抱いたら、当該靴を提出させることができる</li> </ul>	§143-2、5  12、13
7	助力と見なさず、許可する行為【追加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 競技役員、主催者から任命された者が（倒れた選手を）立ち上がらせたり、医療支援を受けられたりするための身体的手助け</li> <li>➢ 電子掲示等による競技経過時間等の提示</li> </ul>	§144-4(g)  §144-4(h)

8	リレーで除外処分を受けた場合のチーム・個々の選手の取扱い【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 除外により失格になるのは当該種目での当該チーム単位</li> <li>➤ 当該チームが失格となっても、個々の選手は単独種目、混成競技の個別種目への出場、チームも他のリレー種目へ出場は可能</li> </ul>	§145-3 §125-5 §163-3、4
9	男女混合競技を認める条件【明確化・追加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ トラック競技：5000m以上の競技、人数、他性別間での助力行為禁止（国内）男女いずれかが8名以内、かつ男女合計30名以内の場合のみ</li> <li>➤ フィールド競技：男女別々に記録用紙作成、 各ラウンドの試技順は性別ごとにでも交互にでも可</li> </ul>	§147-2
10	スタートの再定義【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 不正スタート規則の適用状況を鑑み、§162-5(国内)は競技規則から削除</li> <li>➤ スタートの定義文言の明確化</li> </ul>	§162-5(国内) §162-7
11	直線競走の逆走【変更・追加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 条件を満たした競技場かつ設備が整っている場合のみ</li> <li>➤ レーン表示、風力測定は規則通り</li> </ul>	§163-1(国内) §163-1、10
12	失格対象としての「リレー・チーム」の扱い【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ リレーの際のレーン侵害行為の失格対象</li> </ul>	§163-3、4 §145-3
13	写真判定装置の作動状況での記録の扱い【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ スタート時は自動的に作動しないが、フィニッシュ時は自動的に作動 → 手動計時と同じ</li> <li>➤ スタート時は自動的に作動するが、フィニッシュ時は自動的に作動しない → 手動計時でも写真判定でもない</li> </ul>	§165-17 §165-18
14	ハードルの失格の定義【明確化】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ハードルを越える瞬間に、足または脚がハードルをはみ出て（どちら側でも）バーの高さより低い位置を通ったとき</li> <li>➤ 手や体、振り上げ脚の上側で、いずれかのハードルを倒すか移動させたとき</li> <li>➤ 直接間接を問わず、レース中に他の競技者に影響を与えたり妨害するような行為や他の規則に違反する行為で、自分のレーンやそのレースの他の競技者のレーンのハードルを倒したり移動させたとき</li> </ul>	§168-6
15	〔国際〕U18 男子障害物競走【追加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 規格 高さ 838 mm * 但し、国内では実施せず</li> </ul>	§169-5
16	バトンの受渡し時にバトンを落とした場合の対応【変更】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ (従前) 渡し手と受け手の両方に触られている状態ならどちらが拾っても可</li> <li>➤ (変更) バトンパスが完了していないので渡し手が拾わなければならない</li> </ul>	§170-7(注釈)
17	個人所有投擲物の持込み個数の制限【追加】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 原則 2 個まで</li> </ul>	§187-2
18	混成競技の実施時間【変更】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 連続する 48 時間以内</li> </ul>	§200-2~5 §223-2
19	競歩におけるペナルティゾーン関係の判定者【変更】 <ul style="list-style-type: none"> <li>➤ ペナルティゾーンに入るように命じられても入らない場合や定められた時間とどまらない場合の失格判定は審判長が行う</li> <li>➤ 歩型関連の失格判定は競歩審判員主任が行う</li> </ul>	§230-7(c) §230-4

20	世界記録が公認される種目・日本記録が公認される種目【変更・削除】 > 競走競技 男女 20,000m、25,000m、30,000m	§261、§266-10
21	用語の見直し【変更（国内）】 > ナンバーカード（ビブス） ⇒ アスリートビブス（ビブス） （用語の定着と実態を勘案）	全般 §143-7~10 §216、§230-7
22	施設用器具関連 > 〔国内〕§148-4 に合わせた計測単位表記（原則） > 〔国際〕水濠規格の明確化 > 〔国際〕走高跳の助走路の最大許容傾斜度の変更 1/250→1/167	全般 §169-6 §182-4

3. 〔国際〕2020.11.1 から 〔国内〕2021.4.1 から 適用

1	走幅跳・三段跳でのビデオカメラ等による踏切の判定【新規】 > ビデオカメラ等の機器の使用が可能に > ビデオカメラ等の機器の使用しない場合はこれまで通り、粘土板を使用	§184-5
2	走幅跳・三段跳の無効試技の定義【変更】 > （変更前）身体のどこかが踏切線の先の地面（含む粘土板）に触れた時 > （変更後）足または靴のどこかが踏切線の垂直面より前に出た時	§185-1
3	踏切版（粘土板）の粘土の角度【変更】 > 45度から90度へ > 〔国内〕ゴム台座が「切り欠けタイプ」は継続使用可。	§184-5